

「障害解析用 Linux メッセージ・マニュアルデータベースのコンテンツ作成」 の概要説明

1. 背景

Linux では、カーネルから発せられるエラーメッセージに対して、その原因や対処法を調べるための、いわゆる「メッセージ・マニュアル」が存在しない。このため、ユーザにとってはシステム障害時の対処法が分からず、またサポートサービスを提供する企業等にとっては原因調査に工数がかかっており、これが普及拡大の阻害要因の1つになっている。

このような状況を踏まえ、IPA では 2006 年度から Linux カーネルのエラーメッセージマニュアルを作成するプロジェクトを推進している。2006 年度は、インフラ開発を主眼に、エラーメッセージとその対処方法の登録・検索のための Web インターフェースを備えたデータベースシステムを開発し、さらに初期コンテンツとして 350 件のエラーメッセージへの対処法を作成した。しかし、Linux カーネルのエラーメッセージの種類は約 3,500 件以上に及んでおり、さらにその内容（コンテンツ）の充実を図る必要がある。

2. 本調査結果の概要

調査するメッセージ 350 件（日本電信電話 100 件、日立製作所 100 件、ユニアデックス 150 件）の選定にあたっては、下記を基本方針とした。

- ・発生頻度によらず、重大な不具合を引き起こす可能性のあるメッセージ
- ・各社のサポート現場で出力の実績のあるメッセージ、またそれに関連した周辺メッセージ

そして調査にあたっては、実際に Linux のソースコードを解析し、「メッセージの意味」をはじめ、「メッセージが表示された原因、発生条件（内部現象）」「システムに与える影響（外部現象）」などをまとめた。また同時に、調査した内容から「通知（Information）」「警告（Warning）」「エラー（Error）」「致命的な状態（Critical）」等といった重要度の評価を実施した上で、その対処法の提示を行っている。

調査した結果は、必要な時に直ぐに検索できることが重要であることから、2006 年度の事業成果である障害解析用 Linux メッセージ・マニュアルデータベース（OSS メッセージペディア）へ登録し、公開している。

<OSS メッセージペディア> <http://ossmpedia.org/>

昨年度事業／本事業の実施分、およびボランティアによる協力分をあわせて、計 827 件（2008 年 1 月 7 日現在）のメッセージが登録されている。

以上